

1. 評価報告概要表

作成日 平成22年1月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1072000456
法人名	医療法人富士たちばなクリニック
事業所名	グループホームゆめさき
所在地	前橋市富士見町原之郷975 (電話) 027-288-1643

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年1月13日

【情報提供票より】(平成21年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人 非常勤 0人 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	有 (300,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2		2名	
要介護3	1名	要介護4		3名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 84.7歳	最低	76歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人富士たちばなクリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、「人としての尊厳を尊重しつつ協調し合い、地域に開かれた和み安らげるホーム」の運営を理念に掲げ、支援内容に迷いや問題が生じた時は理念に立ち返り課題解決に当たっている。また、家族会を年5~6回開催し、家族だけの話し合いの時間をもち家族が抱える悩み等を話し合っている。また、アンケート調査を実施し家族の要望や意見を求めたり、介護に当たっては担当制を取り入れ入居者にとって良き理解者となれるよう馴染みの関係構築に努め、家族の悩みや心配事に耳を傾けるなど信頼関係を築き、「ゆめさき」に出会えてよかったと家族や本人に安心して頂ける事業所運営に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を会議で話し合い、入居者との買い物や入浴時の職員が少ない時間帯は玄関の鍵をかけているが鍵をかけない時間を長くするよう努め、介護計画の定期見直しを6ヶ月から3ヶ月に短縮するなど改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、定例会議で職員に趣旨を説明し、人数分をコピーして各々が記入した後管理者が取りまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>原則奇数月の第3金曜日に開催し、入居状況や行事開催状況を報告し、地域代表委員から地域の行事開催予定等を発表してもらい外出行事につなげている。また、市職員から高齢者福祉事業の概要を説明してもらっている。会議では、自己評価と外部評価を報告し、新型インフルエンザ等について意見交換を行うなどサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を年5~6回開催し近況報告等を行い、家族だけの話し合いの時間では家族が抱える悩み等を話し合っている。亡くなった入居者の葬儀に家族代表が参列するなど家族同士の繋がりを大切に事業所運営に努めている。また、以前アンケート調査を行なったが、今後も行い家族の要望や意見を求め、家族の意向を反映した事業所運営に努めていくこととしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し回覧版が回り、総会に出席したり、祭りを見物したり、道路清掃に参加している。隣家の人達と事業所前の道路舗装を村に陳情したり、災害時協力体制の了解を頂いている。また、法人が主催する感謝祭に地域の人達を招待したり、農家の人から野菜を頂戴し共にお茶を飲んだり、中学校の体験学習を受け入れるなど地域との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	定例会議で理念を見直し、「人としての尊厳を尊重しつつ協調し合い地域に開かれた誰もが和み安らげるホーム」を目標に日々支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1日の流れはあるがそれにとらわれず支援している。どんど焼きに参加したり、公民館の文化祭に入居者の作品を出品するなど、理念に沿った支援に取り組んでいる。また、入居者にとって良き理解者となれるよう馴染みの関係構築に努めると共に、支援内容に迷いや問題が生じた時は理念に立ち返り課題解決に当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、総会に出席している。回覧版が回り、祭りを見物したり、道路清掃に参加している。隣家の人達と事業所前の道路舗装を村に陳情したり、災害時の協力体制の了解を頂いている。また、法人が主催する感謝祭に地域の人達を招待したり、農家の人から野菜を頂戴し共にお茶を飲んだり、中学校の体験学習を受け入れるなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定例会議で自己評価の趣旨を職員に説明し、人数分をコピーして各々が記入した後管理者が取りまとめている。自己評価から、職員は理念を意識してケース記録等を行っている。前回の外部評価結果を会議で話し合い、入居者との買い物時や入浴時の職員が少ない時間帯以外は開錠する、介護計画の定期見直しを6ヶ月から3ヶ月に短縮するなど改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則奇数月の第3金曜日に開催し、入居状況や行事開催状況を報告している。地域代表委員からの地域の行事開催予定等を外出行事につなげたり、市職員から高齢者福祉事業の概要を説明してもらっている。また、自己評価と外部評価を報告し、新型インフルエンザ等について意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新書類や運営推進会議議事録を持参する等出来るだけ市役所に足を運び、各種加算制度や職員配置基準などについて指導を受け、市役所発行の各種パンフレットをもらい事業所運営の参考資料としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所概要をホームページに掲載し、行事予定や行事報告等を掲載した「さんぼみち」を毎月の利用料請求書に同封している。家族会を年5～6回開催し近況報告等を行い、家族だけの話し合いの時間では家族が抱える悩み等を話し合ったり、亡くなった入居者の葬儀に家族代表が参列するなど家族同士の繋がりを大切にした事業所運営に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では、新型インフルエンザや「グループホームを出されたらどうしようか」という質問があり、重度化や看取りについて説明している。以前アンケート調査を行ったが、今後も行い家族の要望や意見を求め、家族の意向を反映した事業所運営に努めていくこととしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、極力抑制している。掲示板に顔写真付きの新人紹介を行ない、面会時や家族会の席上で紹介している。また、新規採用職員は退職予定職員と重複する勤務体制を組み(夜勤も同じ)入居者の状況等を引継ぎ、入居者へのダメージを防ぐ配慮を行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が県主催の実践者研修基礎過程を受講し、受講後は研修資料を供覧し会議で報告している。また、法人が運営するグループホームや介護老人保健施設等の職員を対象とし毎月開催する勉強会と市役所や日赤病院が主催する各種研修会に参加すると共に、介護福祉士等の資格取得に便宜を供与している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しているが、協会が主催する各種研修会等に職員は参加していない。法人が運営する9つのグループホームの管理者を対象とした情報交換会に出席し、その内容を職員に伝達している。	○	協会が主催する各種研修等に参加し、サービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望家族に他のグループホームを紹介し比較検討してもらったり、併せて家族や本人に事業所を何度か見学してもらい契約している。また、併設のデイサービスを利用しグループホームとの交流を通じ雰囲気を知ってもらうなど馴染みの関係を深めた後に入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	祭事の煮物の味付けなど地元の調理を教えてもらったり、入居者と職員が会話をしながらまゆ玉を作ったり、入居者が作る油味噌で菜園で収穫した野菜を食べたりしている。また、入居者に家庭の心配事を話し気持の持ち方を教わったり、挫折しそうな時に励まされるなど支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護中に食べたいものや行きたいところ等を聞き記録に残し、外出行事に活用している。意思表示の難しい人は家族から聞き、馴染みの関係の中で表情などから意向を把握しその人らしく生活出来るよう努めている。また、担当制を取り入れ、入居者にとって一番の理解者となり、家族の悩みや心配事に耳を傾けるなど信頼関係を築き、「ゆめさき」に出会えて良かったと家族や本人に安心して頂ける事業所運営に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が家族や本人の意向を把握し、毎月開催する定例会議で話し合い介護計画を作成している。担当者から家族に説明して同意を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月開催する定例会議で、全入居者の身体状況等を話し合い3ヶ月毎の定期見直しを行なうと共に、身体状況の変化や骨折で退院した際に見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が必要とする衣料品の買い物や専門病院の受診は原則家族が送迎しているが、難しい時には職員が対応するなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て母体病院をかかりつけ医とし、月2回往診して頂いている。入居者の身体状況に変化があれば受診に家族の同席を依頼し、緊急時は職員が受診の対応をする等適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「入居者が重度化し、看取りの必要性が生じた場合における対応等の指針」について職員と話し合い家族に説明すると共に、重度化加算やターミナル加算を家族に説明し同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時にプライバシー保護について説明し、守秘義務の誓約を取り交わしている。入居者に対する呼称や言葉かけは生活歴等を考慮し、誇りを損ねないよう支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のサービス計画表はあるがこれにとらわれず、食事や入浴の誘導は無理強いことなく、夕食を食べない場合は夜勤者に引き継いだり、入浴を拒否する場合は精神的に安定している時に「明日体重測定があるから」と声かけをするなど支援している。意思表示の難しい人の場合は、毎日の介護の中で表情等から意向や希望を推測し、会議で話し合い情報の共有化を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間行事計画に基づき毎月外食行事等を行っている。入居者の希望を取り入れたお品書きを作り職員が寿司を握ったり、時には流しそうめんを行ったりしている。誕生会には家族も一緒に食事を摂っている。入居者が食事の盛り付けや後片付けを行ない、職員全員が食事を共に摂り会話している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴が原則であるが、毎日入浴している人もいる。併設のデイサービスの大浴場を利用したり、シャワー浴も行っている。入浴を拒否する人には無理強いすることなく、「明日病院に行くから」と声かけをし誘ったりしている。また、ゆず湯や菖蒲湯で季節感を感じたり、入浴剤を使用するなど入浴を楽しむ工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室や食堂等の掃除、食事の盛り付けや食器洗い、たくあんや白菜の漬物作り等その人の力量に合わせた役割を担っている。また、まゆ玉と一緒に作ったり、新聞を読みながら昨日の出来事を話し合ったり、ハンドベルの練習をして家族会で発表するなど楽しみ事や気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は家庭菜園で野菜を栽培したり、テラスでお茶を飲んだり、近くのスーパーマーケットに食材の買い物に出かけている。年間行事計画に基づき弁当持参でバラ園やアジサイ園を見物するなど計画的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員と話し合いのうえ、買い物や風呂の時間等人手が不足し見守りが十分でない時は鍵をかけているが、鍵をかけない時間を長くするよう努めている。	○	引き続き鍵をかけない時間を長くするように努めて頂きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画と避難実施要領に基づき年2回避難訓練を行っているが、消防署の立会いはない。緊急連絡網が整備され、隣家に災害時の協力依頼をしている。備蓄品目は消防計画に記載され、缶詰等が備蓄されている。	○	災害時に確実な避難誘導や対処ができるよう消防署の立会いを求めた訓練を実施し、指導を受けられるよう期待する

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人が運営している介護老人保健施設の栄養課が作成した献立を参考に、入居者の希望を取り入れた献立表を作成し、栄養バランスの確保に努めている。食事摂取量は日誌に完食の場合は「V」チェックマークを記載し、完食しない場合は主食・副食別に摂取割合を記載している。水分摂取状況は、お茶・コーヒー等が記載され摂取量は記載されていない。	○	水分摂取量の目安を職員と話し合い、水分摂取量を記録されるよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテーブルとソファ・テレビが配置され、入居者が集り談笑したり、歌を唄っている人もいる。昼食後食堂のテーブルを囲み入居者と職員が明日何を食べたいか話し合いをしている。廊下に紅葉の張り絵が飾られ季節感が出され、畳コーナーでは昼寝をしている人や洗濯物たたみをしている人など入居者一人ひとりが思い思いの時間を過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや観葉植物・整理ダンス・ぬいぐるみが持ち込まれている。本を持ちこみ読書する人や新聞を読む人もいる。納涼祭に使用する顔写真の手作り団扇が飾られたり、加湿器が稼動し床暖房が施されるなど居心地良く過ごせるよう工夫されている。		